

ダイレクトメール

作糸会うえの



8月から教育普及係に着任した上野真歩です。これからよろしくお願いします。

所蔵品紹介

青磁神亭壺

中国・3世紀 | 高さ47.5cm | 森田コレクション(作品番号20-Ha-69)

壺の中に何が入っているかを想像することは、人の心を読む行為に似ています。壺の中をのぞき込む時のゾクゾク感は、人の本音や本心を知ってしまう瞬間の言い知れぬ恐怖に似ています。「壺中の天地」という言葉の語源となった中国の昔話は、ある男が仙人に導かれて壺の中に入ると、そこには馳走や美酒に満ちた御殿があった云々(「後漢書」方術伝)の物語。その壺中に存在する秘密のユートピアも、人間の見える心の世界を寓喩しているようでもあります。とく壺というものは何かと奥が深い。壺が鑑賞用の置物と化しつつある現代でも、人は壺に何らか神秘的なものを感じているはず。

そこで今回、とりわけ神秘的な壺を紹介しましょう。上部に五層の楼閣があり、その周囲に胡人(西方の人物のこと。尖った帽子を着いている)、騎馬人物、鳥、熊、犬、羊などがひしめいています。すべて一体として固着されていて、やはり壺本来

けるのが難しい。楼閣部分にひしめく人物・動物たちに隠れるように、その奥、楼閣初層の壁面に、型押しで作って貼り付けた小さな仏坐像が、確かに鎮座しておられます。

この作品は現在、九州国立博物館・文化交流展示室内に出品中(3/25まで)。是非ご自身の目で仏像探しにトライしていただき(見つかる保証は出来ません)、摩訶不思議な壺の世界に引きずり込まれて下さい。

(後藤恒)



【つきなみ講座】

休館中もつきなみ講座は開催中!ただし、会場は福岡市美術館ではありませんのでご注意ください。事前申込不要、一部を除き参加無料です。受付は開始時刻の30分前からです。

1月20日(土) 15:00~16:30

描かれた「自然」

—聖地・名勝、そして風景—

福岡アジア美術館で1/11~4/17に開催される「異境にて—日本作家の見たアジア」展にあわせて、日本で描き継がれてきた「自然」をモチーフとした作品の歴史をどうぞ。講座終了後は、「異境にて」展の担当学芸員と一緒にスペシャルギャラリートークも実施いたします。

宮田太樹(当館学芸員)

場所:福岡アジア美術館 あじびホール

定員:50名 ※スペシャルギャラリートークには常設観覧料が必要。

2月17日(土) 15:00~16:00

展覧会は終わらない

—現代アートの展覧会をつくる

美術館はどういう場所になるのか。そんなことを考えて2014年に「想像しなし」展、2016年に「歴史する」展を企画、実施しました。2つの展覧会を例に、福岡で現代美術展を行うこと、企画意図、出品作家、作品、終了後の展覧について話します。

正路佐知子(当館学芸員)

場所:福岡アジア美術館 あじびホール

定員:50名

3月17日(土) 15:00~16:00

福岡市美術館の仏教美術③

仏教彫刻一種類と姿—

無数に近い仏教尊像を如来・菩薩・明王・天の4部に分類し、その教義上の性格と姿の特徴などについてがまます。併せて造像技法についても述べます。

鈴巣亮介(当館館長)

場所:福岡アジア美術館 あじびホール

定員:50名

市美×市博

黒田資料名品展関連講座

「ここまでわかった!

塙竈・松島図屏風の謎

終了レポート

日本三景としても有名な松島(宮城県)の雄大な景色を描いた「塙竈・松島図屏風」。この屏風は黒田家伝来品として美術館に収蔵されていますが「どうして黒田家に宮城の景色を描いた屏風があるのか?」という問い合わせで黒田家は「どうして黒田家に宮城の景色を描いた屏風があるのか?」といふ謎をめぐって、歴史と美術、それぞれの立場から説を提示しました。どうやら、黒田家に嫁いだ女性の間に仙台藩・伊達家に縁深い人物がいたらしい、ということ今までわかりましたが、全容解明まではまだまだ道半ば。さらなる研究の進展にご期待ください!

そんな課題に挑んだのがこの講座。「持ち主は誰だったのか?」「いつ頃描かれたのか?」という謎をめぐって、歴史と美術、それぞれの立場から説を提示しました。どうやら、黒田家に嫁いだ女性の間に仙台藩・伊達家に縁深い人物がいたらしい、ということ今までわかりましたが、全容解明まではまだまだ道半ば。さらなる研究の進展にご期待ください!

日時:2017年10月15日(日) 14:00~15:30

会場:福岡市博物館1階 講座室1

講師:宮田太樹(当館学芸員)

宮野弘樹(福岡市博物館学芸員)

(宮田太樹)

<ふくおか応援寄付>

福岡市へのふるさと納税(ふくおか応援寄付)は、福岡市美術館コレクションの充実に役立てられています。平成29年度は当館に5,000円以上寄付いただいた方に、記録集「福岡市美術館 クロージング/リニューアルプロジェクト2016」について語る。』を贈呈いたします。みなさまからの応援をお待ちしています!

問合せ:リニューアル事業課 Tel 092-714-6051

ふくおか応援寄付 検索

ただいまリニューアル工事中! | 冬のおとなミュージアム | 所蔵品紹介 | 作品はどこへ?

福岡市美術館・福岡アジア美術館・福岡市博物館

冬のおとなミュージアム

「コレクション×コラボレーション」

1月10日(水)~4月17日(火)

3館による共同企画として、休館中の当館コレクションが、福岡市博物館で開催される「市美×市博 黒田資料名品展VI 黒田資料にみる幕末維新」展と福岡アジア美術館で開催される「異境にて—日本作家の見たアジア」展で各館のコレクションと共に展示されます。当館が休館中だからこそ実現したこの企画。美術と歴史、日本とアジアが織りなす絶妙なコラボレーションを会場でぜひお楽しみください。

関連イベント

コラボ・トーク

市美×市博、市美×アジアの学芸員によるギャラリートーク・セッションを行います。いずれも参加無料ですが、各館常設観覧料が必要です。

日時:1月14日(日) 13:30~14:30

場所:福岡アジア美術館 アジアギャラリー

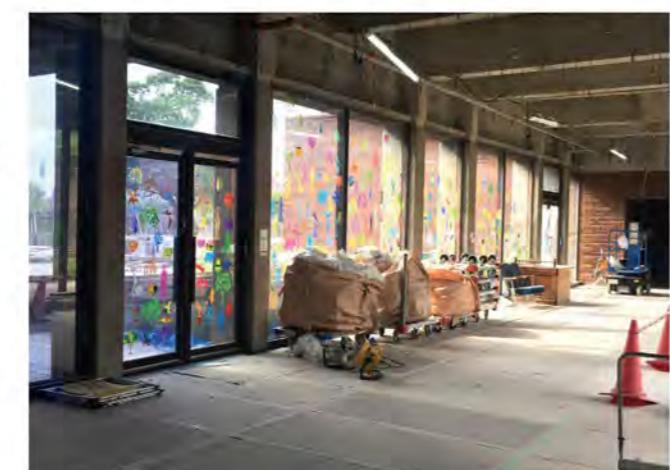
趙純恵(福岡アジア美術館学芸員)×正路佐知子(当館学芸員)

日時:2月12日(月・振休) 13:30~14:30

場所:福岡市博物館 企画展示室2

高山英朗(福岡市博物館学芸員)×宮田太樹(当館学芸員)

ただいまリニューアル工事中!



作品はどこへ? 福岡市美術館の所蔵品が展覧会、美術館・博物館でご覧になります。

「モダンアート再訪 一ダリ、ウォーホルから草間彌生まで—福岡市美術館コレクション展」

21世紀に入って間もなく20年。私たちは20世紀の美術を再考すべき時機を迎えています。本展は、福岡市美術館のコレクションの中から選りすぐりの作品76点で構成。モダンアートの歴史を再確認し、その成果を検証する格好の機会となるでしょう。

◎2月3日(土)~3月18日(日) 鳥取県立博物館
◎4月7日(土)~5月20日(日) 埼玉県立近代美術館
◎6月2日(土)~8月26日(日) 幌島市現代美術館
◎9月15日(土)~11月4日(日) 横須賀美術館

九州国立博物館 文化交流展示室 第3室

「よみの国の暮らし—副葬された模型と容器」開催中~3月25日(日)

福岡市博物館 企画展示室2
「市美×市博 黒田資料名品展VI 黒田資料にみる幕末維新」1月10日(水)~3月4日(日)
「市美×市博 黒田資料名品展VII 黒田如水の文芸」3月6日(火)~4月30日(日)

福岡アジア美術館 アジアギャラリー

「異境にて—日本作家の見たアジア」1月11日(木)~4月17日(火)

問合せ:リニューアル事業課 Tel 092-714-6051

ふくおか応援寄付 検索

九州歴史資料館 第1展示室

「東光院の古仏たち」(仮称)2月10日(土)~4月11日(水)

【翻訳】美術館を死の出す、近頃の日々に於ける美術館への愛着や懐かしさを想起します。一見するだけのアートの特徴に見るかわいい美術館を聞くべきです。

【翻訳】福岡市美術館季刊誌「エスプラナード」190号 2018年1月1日 制作:福岡アートミュージアムパートナーズ株式会社(西日本新聞社) [編集] 渡野桂子(nico edit) [撮影] 渡野桂子(Calumari Inc.) [デザイン] 渡野桂子(nico edit) [制作] 福岡市美術館 [発行] 福岡市美術館 [印刷] 株式会社西日本新聞印刷 [宛先] 福岡市美術館 〒810-0051 福岡市中央区大通公園1-6 | Tel 092-714-6051 | Fax 092-714-6145 | http://www.fukuoka-art-museum.jp/

ESPLANADE

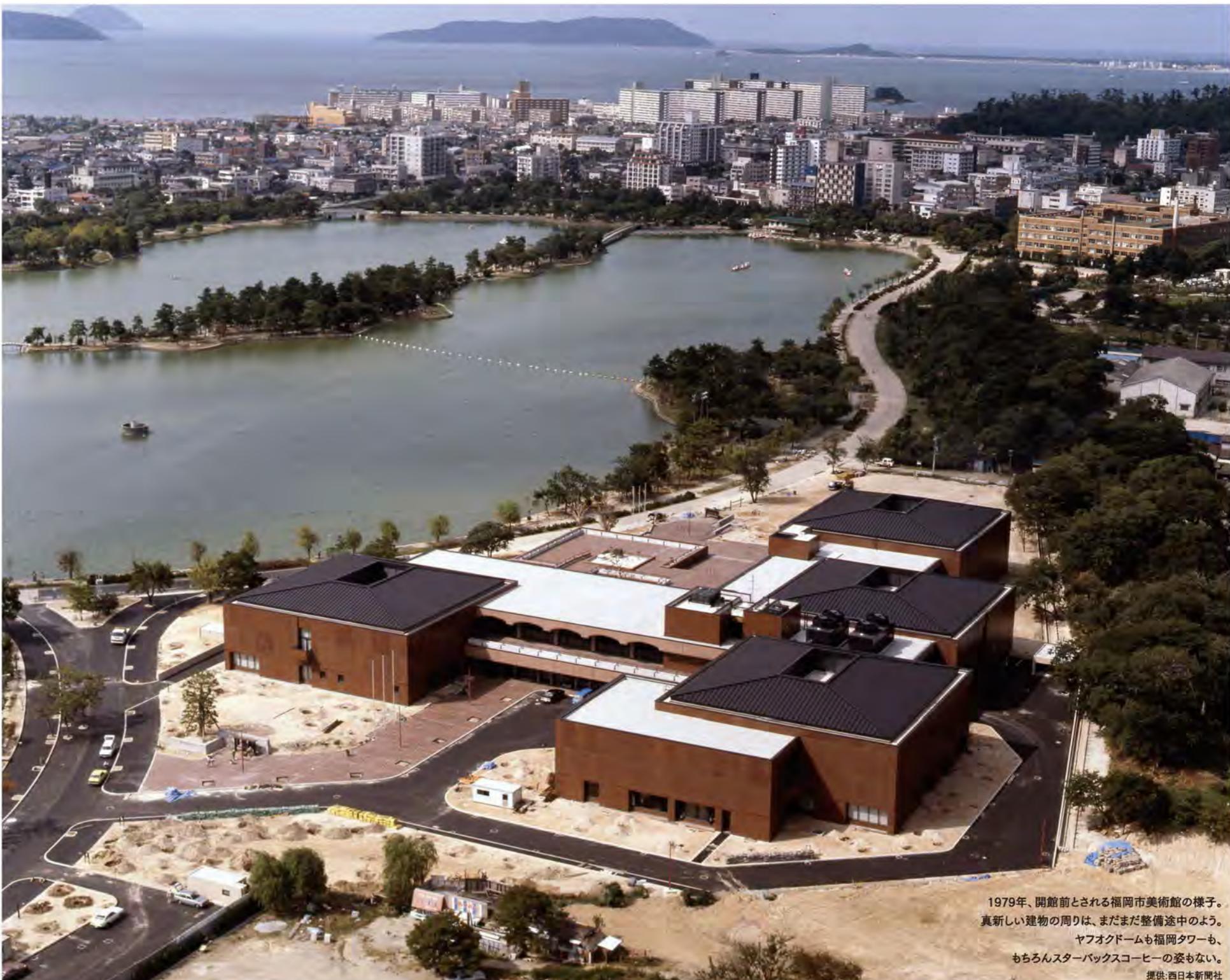
福岡市美術館 季刊誌

エスプラナード

190号

190

January, 2018



美術館のぐるりを、知る、歩く。

大濠公園と舞鶴公園の、これまで

実は古代、大濠公園があるあたりは海でした。「草香江」という地名は博多湾の入り江だったことを表しています。万葉集の大伴旅人が歌んだと言われる歌に出てきます。当時は鴻臚館の間近まで海が迫っていたそうで、ここでは外交使節をもなし、遣唐使の送迎が行われていました。まさに国交の要の場所だったわけです。

時代は下って闇戸の戦い後、あたり一帯は黒田家の初代藩主長政によって、7年がかりで福岡城が築かれました。その姿を模して「舞鶴城」と呼ばれていました。それが舞鶴公園の名前の由来となっています。また現在の大濠公園のあたりは、「大堀」という名前で、外堀として利用していました。

このお堀、なんと天神を突っ切って中洲まで続いていました。現在の姿から想像するより、ずっと大きな規模の城だったのでですね。この城は、お堀の使い道が検討されました。明治時代に入ると、お堀の使い道が検討されるこ

と。この時、九州電力を作った実業家で、茶人とともに知られ、福岡市美術館にもコレクションが寄贈されている松永安左エ門氏によって遊園地案が提案されましたが、反対されたというエピソードも残されています。

新しい美術館は、これまでお話をしたような、万葉の時代からの歴史が積み重なる一番上に、新しい層を加えることになります。100年200年経って振り返った時に、価値のある一時代であらねばと気持ちがひきります。また美術館は、美術を展示する場であると同時に、美術を時間の淘汰から保存することも、大切な役割です。大きな歴史に浸食されてしまいがちなアートの命であります。現在、福岡県と市が一体となって、大濠公園と舞鶴公園を活用するセントラルパーク構想が計画されています。歴史にリスクを払いながら、公園全体が広大なミュージアム空間となることを目指しています。その翼を担う立場として、どんどん増えている外国人観光客はもちろん、市民のみなさんにとって、親しみやすく魅力のある美術館をつくっていくつもりです。

公園と美術館の、これから

福岡市美術館は、1979(昭和54)年、大濠公園の一画に開館しました。収蔵作品や建物そのものはもちろん、環境もまた美術館の大きな財産。来館

